

令和2年（年度）事業報告書

1 事業の成果

令和2年度は、支援の質の向上・収支の改善・体制の整備を目標に事業・活動を進めました。

新型コロナウイルスの拡大については、支援の質の向上、収支改善に関する取り組みに影響を与えることとなりました。一方、感染対策については、国や県からの通達に準じた対応を取り、感染者を出さなかったことは1つの成果として考えています。

（取り組み状況及び成果）

(1) 支援の質の向上（利用者の理解）

いずれの部門においても、障がいや特性を持つ利用者が増加傾向にあり、支援者として障がいや特性を理解すること、利用者が抱える課題を理解した上で支援にあたることに尽力しました。また、個別支援計画の作成や振り返り、面談等を通じた家族との連携を深める取り組みを進めました。

成果：① リベラスクールについては、約35名の児童生徒が利用しました。中学3年生については、飛龍高校三島スクール・県立静岡中央高校（通信制）等7名が高校に進学することとなりました。高校生については、大学・専門学校へそれぞれ2名が進学しました。中学生・高校生いずれも本人が希望する学校へ合格することができました。

② 地域若者サポートステーション事業については、新型コロナウイルスの影響で来所者が減少、就労決定者数100名の目標に対して、47名の決定となりました。年度途中からZoomによるオンライン支援を開始、令和3年度についても継続することにより、就労決定に結びつきたいと考えています。

(2) 収支の改善

事業収入については、自主事業による収入・給付金収入・委託事業収入の3つが主な収入源となっています。自主事業においては、メンタルヘルス等企業向けの支援に力を入れる予定でしたが、感染拡大により影響を受け、メンタルヘルスに取り組む体制が取れない企業が多く、研修やストレスチェック等、当初の目標を達成することができませんでした。

給付金については、放課後等デイサービス事業を利用する児童生徒がそれほど減少せず、前年並みの収入となりました。

成果：前年よりも収益は上がりませんが、3期連続でプラス収支となりました。

(3) 体制の整備

関連法人であるリベラインダストリアと連携して、切れ目ない支援体制の構築を目標としました。具体的には、職位の明確化、管理業務の見直し、チーム支援体制の構築に向けたアクションに取り組

みました。

成果：① 取り組みの中で、すべてのスタッフが遵守すべきルール（コアバリュー）を作成し、支援の基本姿勢としました。

② 各部門でのアクションプランの作成と実施に取り組みましたが、業務の忙しさ等もあり、十分に作成することができない状況が見られました。次年度については、関連法人も含めてすべての部門で作成、実施を徹底すること、あわせて内容を全体で共有することを目標とします。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
①相談事業	教育相談・一般相談	通年	法人事務所	1人	一般30人	151
②教育事業	フリースクール運営	通年	法人事務所	2人	一般4人	1,530
③障がい児通所支援事業	放課後等デイサービス 日中一時支援	通年	法人事務所	5人	一般30人	19,430
④就労支援事業	地域若者サポートステーション事業	通年	法人事務所	2人	一般10人	3,437
				6人	120人	22,617

### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
①農園運営	リベラファームの運営	通年	リベラファーム	2	1,459

(事業報告書に掲載しない事業とその理由)

- ① 障害者等に対する就労継続支援を中心とした障害福祉サービス事業  
現在は、障害福祉サービス業を実施していないため。
- ② 教育フォーラム、芸術祭等のイベントの企画・開催、機関紙の発行等の文化芸術活動  
教育事業・障がい児通所支援事業の中で実施しているため。
- ③ 無料職業紹介事業  
就労支援事業の中で実施しているため。
- ④ 商店街の活性化等まちづくりに関する事業  
教育事業・障がい児通所支援事業の中で実施しているため。
- ⑤ 特定非営利活動を行う団体の支援及び特定非営利活動の啓蒙を図るための推進事業  
三島市のNPO・ボランティア連絡会の中で行なっているため。

## 令和3年（年度）事業計画書

### 1. 基本方針

昨年度に続き、支援の質の向上・収支の改善・体制の整備を基本方針とします。あわせて、より具体的な支援の視点や方向性、具体的なアクションについて明文化し、これらをスタッフが理解・共有した上で事業・活動を進めていきたいと考えています。

#### (1) めざす組織の姿

- ① ストレングス・エンパワメントの視点に立ち、質の高い支援を提供する組織
- ② 部門の枠にとらわれず、チームで支援に取り組む組織
- ③ コアバリューに基づいた支援・業務に取り組む組織
- ④ フレキシブルに新しい活動やアクションを生み出す組織

#### (2) 共有事項

- ① 組織のミッション・ビジョン・コアバリューの理解
- ② 現場の意見・アイデアの検討及び実施
  - ・従来の方法・活動・部門の枠組みにとらわれない
  - ・できない理由ではなく、実現する方法を検討する
- ③ アクションプランの作成・実施・振り返りの徹底
  - ・取り組む課題及びアクションの明確化
  - ・PDCAサイクルに基づいた支援の実現
- ④ 新型コロナウイルスへの対応
  - ・感染予防対策の徹底
  - ・利用者の健康面・心理面への配慮

#### (3) 主要事業・活動について

- ① 相談部門（三島総合心理研究所）
  - ・ストレスチェック・研修・リワークプログラムの実施（メンタルヘルス関係）
  - ・教育研修会の実施（保護者向け・教職員向け）
- ② 教育部門（リベラスコーレ）
  - ・利用者の獲得及び利用人数の調整
  - ・特別活動の実施（第4土曜日の活用）
  - ・通所日数による教育費の設定（フリースクール）
- ③ 就労支援部門（サポートステーション）＊令和3年度～4年度の2年間の委託が決定
  - ・就労決定目標の達成（令和3年度100名・令和4年度110名）
  - ・家族向けの研修会の開催（自治体との連携）
  - ・ラジオCM等、多様なツールを活用した広報宣伝活動の実施